

山梨県衛生環境研究所年報

令和3年 第65号

Annual Report of the Yamanashi Institute
for Public Health and Environment

No. 65, 2021

山梨県衛生環境研究所

はじめに

山梨県衛生環境研究所は、公衆衛生や環境に関する県内唯一の公的検査研究機関です。県民の健康と本県の環境を守るため、感染症や食中毒の原因究明やまん延防止、食品及び医薬品の安全性の確保及び大気、水質などの汚染防止等の環境保全に関する様々な試験検査及び調査研究に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）については、今年の夏の今までに経験のしたことのない大きな流行（第7波）に続き、11月から新たな流行が発生しています。このような状況の中、当研究所でも設備機器の整備や検査要員の増員など検査体制の強化を図りながら、保健所などの行政機関からの依頼検査に対応してきました。全国の衛生研究所においても変異株検査などの対応に追われています。

今、私たち地方衛生研究所には、新型コロナウイルス感染症に限らず新たな感染症のパンデミックを想定し、専門的知識や技術を必要とする調査研究、試験検査を行うための体制を整備することが求められています。国や関係機関と連携を図りながら、早急に進めていかなければならないと考えます。

感染症に限らず、食品、医薬品、大気、水質など公衆衛生に関する問題は多様化、複雑化、国際化が進んでおり、地方衛生研究所を取り巻く環境は大きく変化しております。今後も県民のニーズに応えられるような衛生環境研究所を目指し、更なる試験検査、調査研究の機能強化を図って参りたいと考えておりますので、より一層の御理解と御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

ここに、令和3年度の調査研究成果と業務概要を「山梨県衛生環境研究所年報第65号」としてとりまとめましたので、御高覧のうえ、御指導、御助言をいただければ幸いに存じます。

令和4年12月

山梨県衛生環境研究所
所長 内田裕之

目 次

I 組織と沿革	1
II 業務報告	
企画情報科・総務スタッフ	2
生活科学部	8
微生物部	10
環境科学部	13
III 資料	15
IV 論文抄録および学会発表	27
V 研究報告	29
無機塩類とその濃度の違いがコーヒーやお茶の風味に及ぼす影響	30
県内環境水中のPFAS濃度の把握	37
山梨県における梅毒の発生状況について	44
2015年から2021年までに山梨県内でヒトから分離された カルパペネム耐性腸内細菌科細菌について	48
山梨県におけるインフルエンザウイルスの抗体保有状況（2021～2022）	51
吉田局における微小粒子状物質（PM _{2.5} ）の経年変化と特徴	54
富士五湖の特性を用いた湖沼環境教育の提案	62
山梨県における大気汚染の推移について（第2報） 平成20年度～令和2年度の常時監視結果	65